

アジ歴とは？

アジア歴史資料センター 細谷 龍平



アジア歴史資料センターは、国立公文書館の組織として設立されて5年、通称「アジ歴」として次第に知られるようになってきました。もともとは1994年の総理大臣談話とその後の閣議決定でアジ歴を作ることが決まりましたが、種々の曲折を経てその発足までには7年の歳月を要しました。しかし、多くの関係者の努力により2001年11月に発足したアジ歴は、最先端のITを駆使したデジタルアーカイブとして世界でもユニークな組織として育ってきました。その最大の特徴は、歴史文書の原本を自らは所蔵しませんが、各方面に所在する関連文書のデジタルイメージを一元的に集め、その書誌情報とテキストも一部判読してデジタル化し、これらを全て最新の検索システムの中に統合して、インターネット上無料で公開しているということです。現在、国立公文書館、外交史料館と、防衛研究所図書館の3機関が所蔵する、明治から昭和前期・終戦までの日本とアジア諸国との関係についての公文書を対象としています。構築目標は3千万画像（文書にして4～5千万ページ）と、この種のデータベースとしては世界にも類のない規模のものです。

利用者の方々からは次のような反響が寄せられています。

「インターネットによっていつでもどこでも観たい時にクリックひとつで資料を調べられることはとてもすばらしいと思います。」

「伝聞資料ではなく原典を閲覧できるのが有りがたい。」

「歴史的事実をなるべく客観的に観察できる材料を提供する機関として、嘗々と努力している様子が窺えます。」

「日本とアジアの近隣諸国とのいままでの関係を良い事も不幸な事もありのまま正確に示して、今後の友好関係の構築に役立てて欲しい。」

「まだまだこのHPの存在を知らずに損している人がいると思います。もっと普及させてはどうでしょうか。」

「もう少し幅広い時代の資料を閲覧させて頂けると嬉しい。」

「バーチャル機能を充実させてインターネット所蔵館として楽しめる企画展をどしどし公開して欲しい。」

「今後ますますの高齢化社会が進展する中で、貴センターは、貴重な生涯学習のセンターでもある。」

「是非、今の若い人達、子供たちにこの素晴らしい資料に触れて、歴史に興味を持って欲しいと思います。」

「子ども達の調べ学習にも活用できるホームページ作りを希望したい。」

「海外の史料館・文書館との提携を進め、提携先との相互リンクや共通のファイル形式で公開し

て欲しいと思います。」

この特集号を手にとられた皆様ともこれが何かのご縁かと思えます。これにより少しでもより多くの方々にアジ歴のことを知っていただき、私どものデータベースを、研究に、教育に、あるいは学習にさらに一層活用していただけることを願っています。アジ歴は、歴史問題について特定の解釈や立場を取るものではありません。歴史認識を共有することは困難な場合でも、まず歴史の事実を広く共有することが相互理解のための基盤というのが私どもの考えです。アジ歴が扱っています資料の範囲の公文書は全てそのまま公開しております。一部個人情報伏してありますが、当時の関連の極秘文書も全部含むガラス張りの情報源です。

上記の利用者の声にもありますように、かつては限られた専門の研究者が所蔵機関に出向き、時間をかけて探す必要があった資料に、何時でも何処でも誰でもが瞬時にアクセスできるようになりました。しかし、膨大な量の資料ですので、件名、テーマ、出典などで検索できるとはいえ、私たち自身気付かない情報や新たな歴史の発見がまだまだたくさん眠っているはずで、研究者、学徒の皆さんにアジ歴のデータベースを更に大いに探索していただきたいと考える所以です。国内外の類縁機関が持つデータベースとのリンクや相互検索機能も今後拡充して、利用者の利便をさらに向上させていきたいと考えています。

また、アジ歴自体にまとまった資料群が存在する重要なテーマに焦点を置いたオンライン特別展の制作にも力を注いできています。これまでに、日露戦争、岩倉使節、開戦に至った日米交渉、及び写真週報について特別展を立ち上げました。今後は、上記のような利用者の声にも応え、青少年にも一層使ってもらえるように配慮したわかりやすい特別展の作成に取り組んでいく所存です。さらに、英語、中国語、韓国語のページも、それぞれイントロまでと、英語については文書のタイトルによる検索まで行えるようにしています。この点は今後更に強化していきたいと考えています。

アジ歴では、開設5周年を記念して、2006年12月8日、東京赤坂プリンスホテルにおいて、「歴史が蘇るデジタル・アーカイブ 日米交渉史などに見る「アジ歴」5年目の展開」と題するシンポジウムを開催しました。約160名の参加を得て、菊池国立公文書館長による開会挨拶、開戦に至った日米交渉に関する細谷千博日本学士院会員の講演、アジ歴の5年を回顧した石井米雄アジ歴センター長の講演、及びアジ歴新システムの実演による紹介を行いました。また、平野健一郎早稲田大学教授ほかの有識者によるパネル討議で、日米交渉を事例として、戦前の歴史が現代日本にとって持つ教訓、アジ歴などのデジタル・アーカイブが果たし得る役割と、今後への提言を話し合いました。この特集号には、5周年シンポジウムでの各講演、発言の内容を収録しています。また平野教授からは別途、シンポジウムを振り返っての一文を寄せていただきました。

何はともあれ、まずはアジ歴のウェブサイト <http://www.jacar.go.jp/> を是非ご覧ください。利用者の皆様とともに形作っていくデジタルアーカイブです。忌憚のないご意見、ご示唆をお待ちしています。